

ライン工房
情報誌

第40号

街の風

企画・制作
社会福祉法人 ライン工房
〒861-8041
熊本市東区戸島5丁目8番6号
TEL 096-380-5752
FAX 096-380-1343
E-mail rine2001@alpha.ocn.ne.jp
URL <http://www17.ocn.ne.jp/~line/>

年頭のご挨拶

作業所設立から25年を経て

統括施設長 熊川 嘉一郎

僅かたった30㎡弱の簡易プレハブ小屋から始まったライン工房の活動も、昨年で四半世紀、25年の節目を迎えました。この25年間という年月。障害者福祉の世界の変化はその昔を多少なりと知っている立場からみれば正に隔世の感ありというところ です。

ライン工房が作られた当時は「施設」と言えば入所型、つまり24時間そこで暮らすための施設が主流であり、自宅から毎日通うことができる通所型の施設というものは熊本市内でも数えるほどでした。そして、そのいずれもが定員一杯であったと記憶しています。当時、ある通所施設が新たに作られたとき、すぐに定員が埋まってしまうことを心配した親御さんたちが、養護学校を途中で退学してまで施設利用に結びつけるといった動きがあったほどに、“通う場”は枯渇している状況だったのです。

こういった状況を受けて、精神障害者を中心としたやまびこ共同作業所（現・ワークセンターやまびこ）や知的障害者の親の会が運営する第二ぎんなん作業所といった、施設ではない、いわゆる無認可作業所（法律に基づかない小規模な作業所）が熊本市でも作られていました。法定施設とは異なり、職員1人分の人件費にすら届かないごく僅かな補助金が頼りの経営形態でしたが、通う場の圧倒的な不足もあって少しずつ数が増えていきました。

そのような中、ライン工房もまた無認可の小規模作業所として作られました。自身も車椅子に乗る西嶋龍文氏を中心に有志が集まり、市内長嶺の地で5名の利用者を迎え、その産声を上げたのです。他の施設や作業所ではバリアフリー等の関係で受け入れがなかなか進んでいなかった肢体不自由を持つ方々が利用者の中心でした。

それから25年。“通う場”を取り巻く環境は大きく変わりました。

かつて熊本市内で10ヶ所に満たずに絶対数が不足していた通所型は今や100ヶ所を超えるところと

なり、少なからぬ施設等において新たな利用者の受け入れに余裕のある状況となっています。利用される方においてはそれだけ選択肢が増え、かつ、各人の目的に応じた事業種類も整ったことで、昔日のような苦労は既に解消されています。

逆に施設・事業所側とすれば、ライン工房も含めて少なくとも“通う場づくり”という役目は既に終えたとも言えるでしょう。例えばライン工房の中心事業である就労継続支援B型で言えば、そこに通う場があり、利用者が取り組む作業が準備されていて、かつ一定の毎月工賃が支払われる、というだけで利用希望者に選んでもらえる状況にはもはやないということです。これまで以上にその施設の“中味”が問われる時代に入っていることは間違いのないところ です。

では、果たしてライン工房は、25年前の昔日に比べてその中味を大きく前進させてきたと胸を張れるだろうか、と自問することがあります。

当時、私はまだライン工房の職員ではなく、その応援者のそのまた隅っこに紛れていただけですので直接の比較はできないのですが、国に認可されていない、つまり福祉制度の外に置かれ、その恩恵に浴せない時代であったからこそそのエネルギーがその小さな作業所には満ちていたように思います。それは未開を拓く力であり、荒地を耕す力であり、苦労の末の収穫の大きな喜びの力でもあったと感じています。そしてそれらは西嶋氏を中心とした、ご家族を含めた関係者の皆さんの「闘い」と言っても良い懸命な取り組みの中で紡ぎ出されてきたものです。

設立25年という節目を経た今、往時のその原点に深く思いを馳せるとともに、この25年で大きく様変わりしてきた福祉の世界にあってライン工房のこれからの在りようを職員の皆とともに追求してまいります。

この1年もどうぞよろしくお願い申し上げます。